

1 日 時 令和3年〇月〇日(〇)～〇月〇日(〇)

2 学年・組 第6学年〇組 13名

3 プログラム名 「道徳的価値についての自分の経験をもとに、自分との関わりで考える」

4 プログラムのねらい

テーマ解決型の学習指導過程を行うことで、答えが一つではない道徳的な課題に対して、一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、自分なりの考えを見付け出すことができる。

5 プログラム設定の理由

(1) プログラムについて

道徳科学習指導要領解説では、道徳科を「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』『議論する道徳』」とすることが示されている。自身の実践では児童同士の交流を積極的に行っていたが、教えたい道徳的価値について自身を与える傾向が強く、答えは一つではないことを児童と十分に共有できていなかったこと、導入で価値について考える場を設けていたが、児童が自分自身の問題として十分に捉えることができていなかったことが課題であった。

そこで、次の二点に留意してプログラムを設定した。

一つ目は、相手を思う大切さを考える教材を扱ったことである。学習指導要領解説には「考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする」のが高学年の児童の傾向であると記されている。本学級の児童もその傾向が強く、友達関係でトラブルが起こることがあった。相手を思う大切さは理解していても、実際に相手を大切にすることは分かっているにもかかわらず行動に移すのは難しいことだと考える。この「分かっているが難しいこと」について、自分自身のこととして問題意識をもち、自分なりの考えに至ることは意義のあることだと考えた。

二つ目は、自分自身のことから友達、家族、崇高なもの、というように、児童が問題意識をもちやすいものからもちにくいものへと段階的に対象を広げていけるよう、内容項目のAからDに配列したことである。

(2) 児童の実態

(略)

(3) 指導にあたって

本プログラムのねらいを達成するために、テーマ発問を用いたテーマ解決的な学習指導過程によって学習を進める。

ア. テーマ発問

テーマ発問とは、テーマそのものを掘り下げたり、追求したりする発問である(永田, 2011)。テーマ発問を用いることで、登場人物の心情理解に終始するのではなく「自分はこのように考える」と自分の考えを見付け出そうとする授業につながると考える。

イ. テーマ解決的な学習指導過程

テーマ解決的な学習指導過程とは、①導入→②テーマ設定→③テーマ追求→④テーマ解決→⑤終末、という学習過程である(石川, 2018)。

① 導入

まず本時で扱う道徳的価値に関する自分の経験や考え方を想起させ、ワークシートに書かせる。次に、友達と意見を交流する。自分の捉えと他者の捉えをワークシートに記入し、新たな視点を加える。

② テーマ設定

導入で問うた経験を生かして、「責任ある行動とはどういうことだろう」「友情とは何だろう」といったテーマ発問を行うことで、全員で考える課題につなげる。また、現時点でのテーマに対する考えをワークシートに書かせる。

③ テーマ追求

教材を扱い、ねらいとする道徳的価値につながる箇所を取り上げ、中心発問を行う。発問に対する考えに対して、理由や具体を問うたり、友達との意見をつなげたりすることで、道徳的価値に対して多面的・多角的な視点を取り入れた考えに発展できるようにする。

④ テーマ解決

導入で行ったテーマ発問を再度行い、学習後のテーマに対する考えをワークシートに書かせる。②で書いたものと内容が変わっていない児童については、変わっていない理由や学習を通して考えたことについて言語化できるようにする。

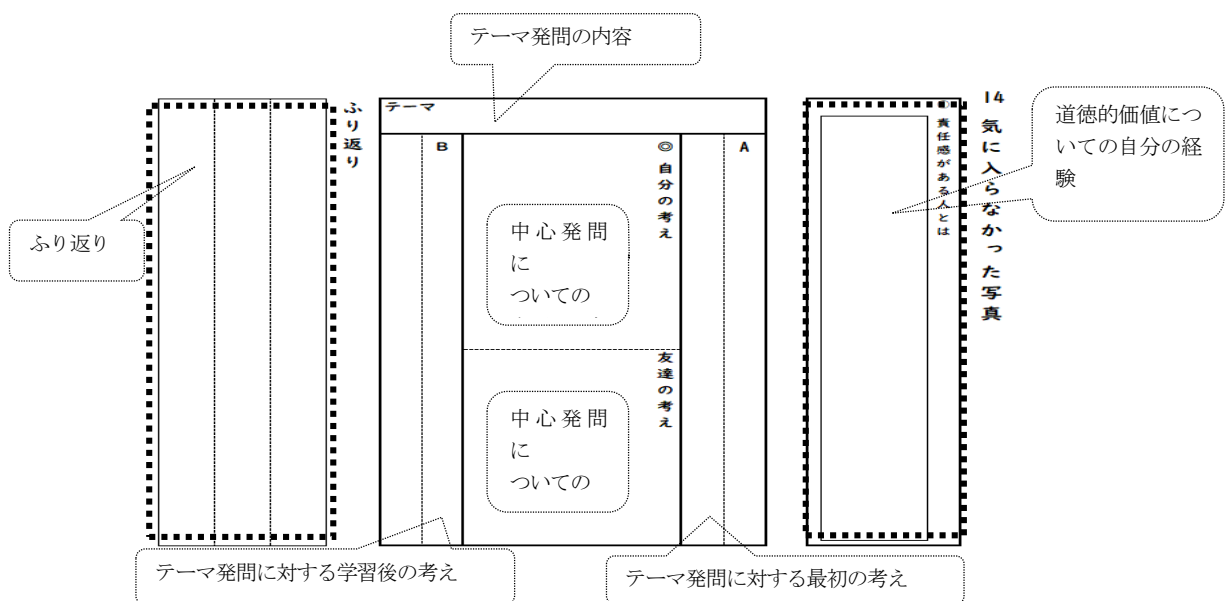
⑤ 終末

学習の内容をふり返り、自分の考えをワークシートに書かせる。考えの表出が難しい児童には、ワークシートを基に、個別に学習の内容を思い出させながら、自分の考えを表出できるようにする。

(参考 永田 繁雄 『道徳教育』2011年4月号 『場面発問』だけの授業から脱却する)
(参考 石川 浪子「自分との関わりの中で考えさせる道徳科授業の在り方～テーマ発問を取り入れた学習指導過程の工夫を通して～」2018年 宮崎県教育研修センター 研究員研究報)

ウ. ワークシートの活用

児童が自らの考えを深めたり整理したりするとともに、テーマ解決的な学習指導過程に沿って自分の考えを視覚化し、つながりをもって学習できるワークシートを活用する。



6 個人内評価としての見取り

- (1) 自分の経験をもとに、問題意識をもつことができている。
 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えている。
 ○ これからの生き方の課題や、それを実現していこうとする思いや願いがある。
 ○ 自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方がある。
 ○ 道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めている。

7 プログラム計画 (教材の出典 光村図書「きみがいちばんひかるとき」)

	主題名 (内容項目)「教材名」	ねらい	個人内評価としての見取り	評価方法
1	責任を自覚して (A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 「気に入らなかった写真」	無断で写真をアップしたことを友達に咎められて悩む姉の気持ちに共感し, 姉に足りなかったところを考えることを通して, 責任ある行動をしようとする態度を育てる。	(1) 自分の経験をもとに, 問題意識をもつことができている。 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。 ・ 相手のことや行動に伴う影響を踏まえ, 自分で判断して行動することが責任ある行動だと分かる。 ・ 自分では良い行動だと思っけていても, 自分だけの感覚で行動すると相手によっては嫌な思いをすることもあるので, 相手のことを考えて行動することが大切だと分かる。	発言 ワークシート
2	相手を受け入れるために (B 相互理解, 寛容) 「みんな, おかしいよ!」	私 (和花) と絵里子, 真紀のそれぞれの言葉に込められた思いを比べて考えることを通して, お互いに理解し合うために相手の立場を尊重しようとする実践意欲を育てる。	(1) 自分の先行経験をもとに, 問題意識をもつことができている。 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。 ・ 多面的な見方で相手を理解し, 自分から伝えたり聞いたりすることが大切だと分かる。 ・ 相手の意見を素直に聞き, なぜそのような考え方をするのかを, 相手の立場に立って考えることの大切さが分かる。	発言 ワークシート
3	友達とは (B 友情, 信頼) 「コスモスの花」	「ぼく」の, 北村に対する「北村なんてー」と「やめろよー」の裏にある気持ちを対比して捉えることを通して, 友達とはどういう存在か考え, 友達とよりよく付き合っていこうとする態度を育てる。	(1) 自分の先行経験をもとに, 問題意識をもつことができている。 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。 ・ 他の人の言動に左右されず, 自分は友達を尊重し, 信頼して行動することが大切だと分かる。 ・ 葛藤や対立があっても, 友達を大切にしたいという心が友達関係を深めていくために必要だと分かる。	発言 ワークシート
4	家族からの思い (C 家族愛, 家庭生活の充実) 「ぼくの名前呼んで」	父親の涙ながらの手話を見た太郎の気持ちを考えることを通して, 自分の成長を願い愛情をもって育ててく	(1) 自分の先行経験をもとに, 問題意識をもつことができている。 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。 ・ 家族は自分の成長を願って, 愛情をもつ	発言 ワークシート

		<p>れている家族の思いを知り、感謝の気持ちをもって家族に接しようとする態度を育てる。</p>	<p>て育ててくれていることに気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の愛情を受けて、自分がどのように生きるか考えられている。 	
5	<p>かけがえのない命 (D 生命の尊さ) 「おじいちゃんとの約束」</p>	<p>祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、生命の尊さについて考え、かけがえのない生命を精一杯生きようとする心情を育てる。</p>	<p>(1) 自分の先行経験をもとに、問題意識をもつことができている。 (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命のかけがえのなさについて、自分の命はたった一つの大切なものであること、他の人の命も自分と同じように大切なものであることなど多面的・多角的に捉えることができている。 ・ 自分にとって命を大切にすることはどういうことか、自分の考えをもつことができている。 	<p>発言 ワーク シート</p>

1 主題名 責任を自覚して（A 善悪の判断，自律，自由と責任）

2 教材名 「気に入らなかった写真」（「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) 価値観

自己を高めていくには自由な考えや行動が大切だが，行動したことによる結果には責任が問われる。社会生活を送っていく上で責任を自覚して行動することが必要である。しかし，昨今では，責任への自覚が足りず，周りのことを考えずに振る舞う人が多いのも事実である。スマホやタブレットの普及とともに，その風潮は一層強くなっているのではないだろうか。たとえ軽はずみな行動であっても，行動の結果には責任が伴うことについて，自分のとった行動の影響から多面的・多角的に考えることが必要である。

(2) 児童観

(略)

(3) 教材観

友達との集合写真を，「みんなにも見てもらいたい」という思いでサイトにアップした姉は，一人の友達から勝手に投稿したことを咎められ，悩む。児童にとって実感の湧きやすい題材であるが，勝手に写真をアップしてはいけないことは，児童が既に理解している価値であり，ただ分かっていることを確認するだけで済ませてはならない教材だと考える。

児童が生活の中で携帯機器を用いる機会は，今後さらに増えることが予想される。「行ったことには責任が伴う」という価値を実感をもって理解させることは喫緊の課題であると言える。

教材を通して，姉には誰かを傷つける意図はなかったが，結果として嫌な思いをした人がいるということに目を向けることで，行動に対する責任の重さを考えさせたい。

4 本時のねらい

無断で写真をアップしたことを友達に咎められて悩む姉の気持ちに共感し，姉に足りなかったところを考えることを通して，責任ある行動をしようとする態度を養う。

5 個人内評価としての見取り

- | |
|--|
| <p>(1) 自分の経験をもとに，問題意識をもつことができている。</p> <p>(2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none">相手のことや行動に伴う影響を踏まえ，自分で判断して行動することが責任ある行動だと分かる。自分では良い行動だと思っけていても，自分だけの感覚で行動すると相手によっては嫌な思いをすることもあるので，相手のことを考えて行動することが大切だと分かる。 |
|--|

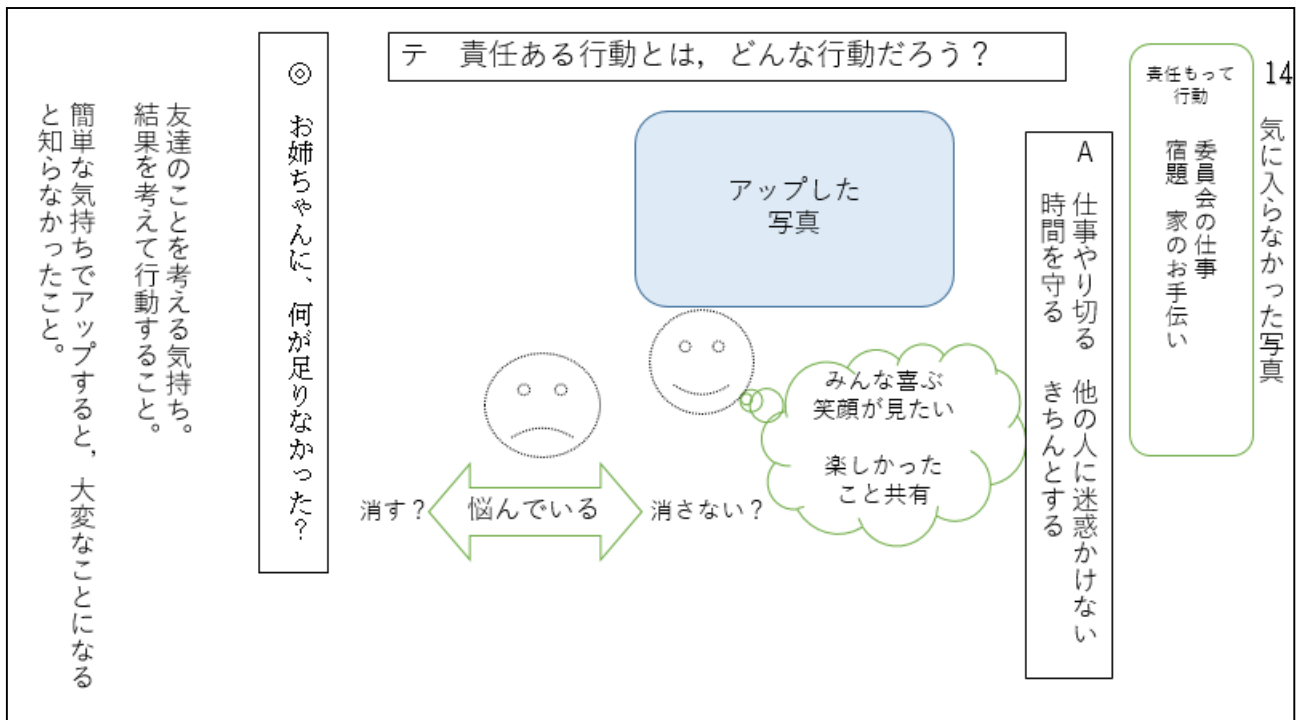
6 準備物 場面絵，スライド資料，ワークシート

7 本時の展開

	主な学習活動 ○○発問 ・ 予想される児童の反応	指導の工夫・評価 ◇支援 ☆評価
導入	<p>1 自分の経験を思い出し、ワークシート①に書く。</p> <p>○ 責任をもって行動できた経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の仕事を忘れずにやった。 ・ 宿題を最後までやった。 ・ 家の手伝いをやった。 ・ ペットの面倒を見た。 	<p>◇ 具体的な行動を思い出して書くよう助言する。書けない児童には、友達の行動でも良いと伝える。</p>
テーマ設定	<p style="text-align: center;">テーマ(例) 責任ある行動とは、どんな行動だろう。</p> <p>2 テーマに対する最初の考えを、ワークシートAに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたことをやり切ること。 ・ 他の人に迷惑をかけること。 ・ 時間を守ること。 ・ やらなかつたら困る人がいることを考えること。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるよう1に書いたことを参考にしよう助言する。</p> <p>☆ 自分の経験をもとに、問題意識をもっている。(ワークシート、発言)</p>
テーマ追求	<p>3 教材を読み、姉の行動や気持ちについて話し合う。</p> <p>○ お姉ちゃんはどんな気持ちで写真をアップしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに喜んでもらいたかった。 ・ みんなの笑顔が見たかった。 ・ 楽しかったことを共有したかった。 <p>○ お姉ちゃんは、何で悩んでいるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 里菜ちゃんは消して欲しい。他の人は消してほしくない。 ・ 消したら、他の人から「消してほしくなかった」と思われる。 ・ 消さなかつたら、里菜ちゃんはずっと嫌な思いのまま。 <p>4 中心発問について考え、ワークシート◎に書く。</p> <p>◎ お姉ちゃんに、何が足りなかつたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のことを考える気持ち。 ・ 結果を考えて行動すること。 ・ 簡単な気持ちでアップすると、大変なことになると知らなかつたこと。 	<p>◇ お姉ちゃんは純粋に友達に喜んでもらいたかったことをおさえる。</p> <p>◇ 責任という価値について焦点化して考えるために、消すしか方法がないが、消しても解決しない問題であることをおさえる。</p> <p>◇ 多面的・多角的な見方ができるよう、書いた内容を発表する場を設け、自分にはなかつた考えをワークシートに書くよう伝える。</p> <p>◇ 自分のこととして考えるために、自分にも似た経験がなかつたか問う。</p> <p>◇ 責任に対する価値が広がるように、出てきた言葉をAで書いたことと比べるように板書する。</p>

<p>テーマ解決</p>	<p>テーマ（例） 責任ある行動とは、どんな行動だろう。</p> <p>5 テーマに対する今の考えを、ワークシートBに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考えて行動すること。 簡単な気持ちで考えず、どうなるかしっかり考えること。 困ったことになると思ったら、やらないこと。 	<p>◇ ワークシートAと同じことを書いている児童に対しては、個別で話を聞くことで、価値の深まりを言語化できるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>6 学習を振り返ってワークシートに書く。</p> <p>○ 今日の学習を通して、今の自分は責任ある行動をとれているかどうか、振り返りましょう。</p>	<p>◇ 本時の学習内容を振り返り、自分の考えをまとめるため、ワークシートに記入させる。</p> <p>☆ 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。（ワークシート）</p>

8 板書計画



1 主題名 相手を受け入れるために（B 相互理解，寛容）

2 教材名 「みんな，おかしいよ！」 （「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) 価値観

意見の多様性は豊かな社会をつくる原動力になるが，多様性を認めるためには自分と異なる意見や立場を受け止めて相手への理解を深めることが重要である。しかし，時に私たちは，自分の立場を守るために，異なる意見や立場を受け入れようとできず，自己本位に陥りやすい弱さをもっている。特に高学年の時期は，相手のものの見方や考え方との違いをこれまで以上に意識するようになり，意見の近いもの同士が接近し，そうでない者を遠ざけようとする行動も見られる。

相互に理解を深め，よりよい人間関係を築いていくためには，相手の意見を素直に聞き，なぜそのような考え方をするのか，相手の立場に立って考える態度を育てることが必要である。

(2) 児童観

(略)

(3) 教材観

真紀に対して思っていることを言えない私（和花），和花にも真紀にも自分の考えを正直に伝える絵里子，絵里子に言われたことに対して「ありがとう」と言う真紀の3人が登場する。本時では，言っても分かってくれないと思い真紀に本当のことを言えない私（和花）の気持ち，絵里子から本当のことを言われて「ありがとう」と言った真紀の気持ち，強く当たってしまった相手に「ごめんね」と真紀が言えた理由を考えた上で，相互理解のために何が必要か考える。

真紀の「ごめんね」には，相手の事情を理解しようとしていなかったという反省があり，それに気付かせてくれたのは絵里子の注意であることを考えた上で，相互理解のためには相手の立場に立って考えることが大切であることに気付かせていく。

4 本時のねらい

私（和花）と絵里子，真紀のそれぞれの言葉に込められた思いを比べて考えることを通して，お互いに理解し合うために相手の立場を尊重しようとする実践意欲を育てる。

5 個人内評価としての見取り

- (1) 自分の経験をもとに，問題意識をもつことができている。
- (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。
- ・ 多面的な見方で相手を理解し，自分から伝えたり聞いたりすることが大切だと分かる。
 - ・ 相手の意見を素直に聞き，なぜそのような考え方をするのかを，相手の立場に立って考えることの大切さが分かる。

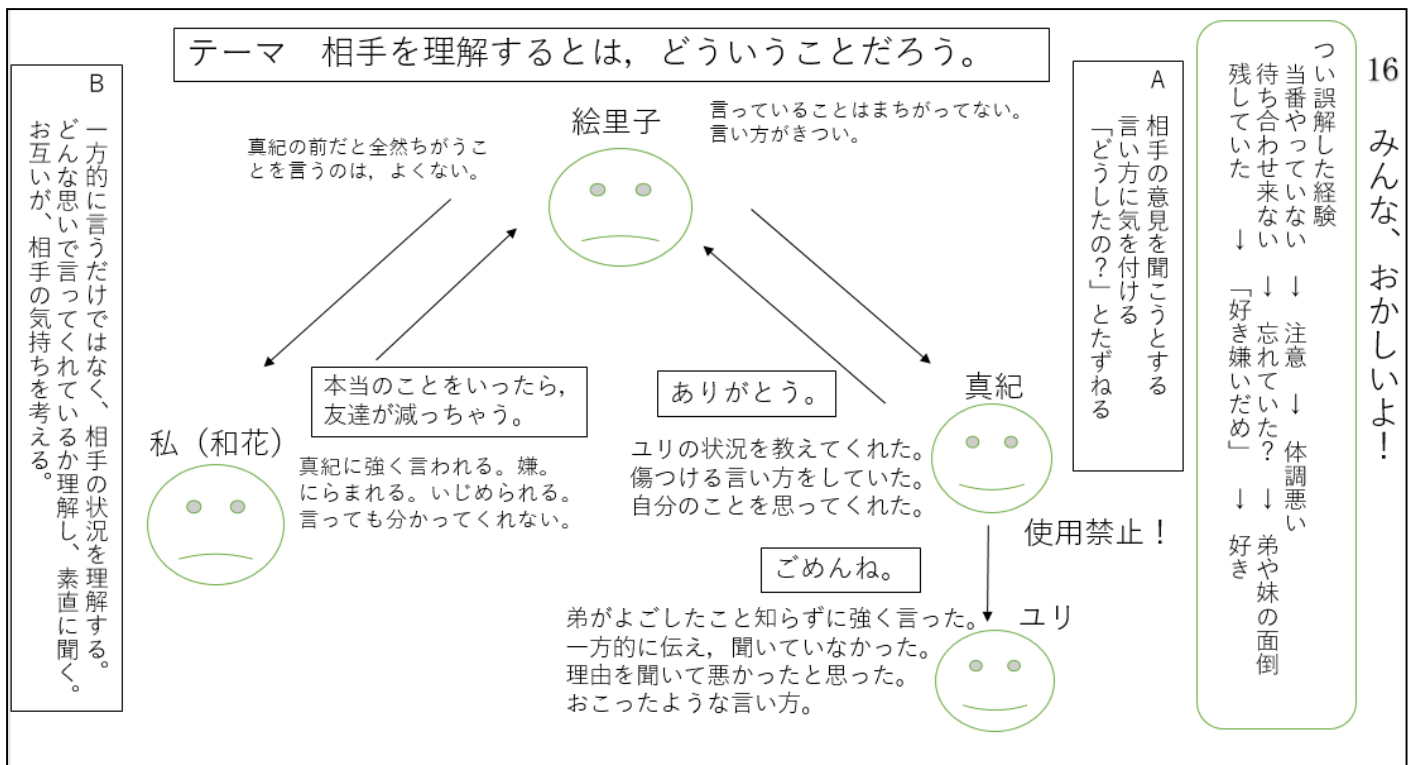
6 準備物 場面絵，スライド資料，ワークシート

7 本時の展開

	主な学習活動 ○◎発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫・評価 ◇支援 ☆評価
導入	<p>1 自分の経験を思い出し、ワークシート①に書く。</p> <p>○ 友達をつい誤解してしまった経験はありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当番をやっていたので注意したら、体調が悪いことが分かった。 ・ 友達が待ち合わせに遅れたので忘れていたのだと思ったが、家の人の帰りが遅くて弟や妹の世話をしていたと知った。 ・ 給食で魚を残していたので、「好き嫌いはだめだよ」と言ったら、好きなので残していると分かった。 	<p>◇ イメージしにくい児童には、教員が自身の経験を例示し、誤解について具体的に考えられるようにする。</p>
テーマ設定	<p>テーマ (例) 相手を理解するとは、どういうことだろう。</p> <p>2 テーマに対する最初の考えを、ワークシートAに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の思いが分かること。 ・ 決めつけないで、相手がどうしてそうするか聞くこと。 ・ 「どうしたの？」とたずねて相手の思いを知ること。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるように、導入でワークシートに記述した自分の経験を基に考えるよう助言する。</p> <p>☆ 自分の経験をもとに、問題意識をもっている。(ワークシート、発言)</p>
テーマ追求	<p>3 教材を読み、登場人物の気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 私は、どうして本当のことを言わなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真紀からもっと強く言われ、嫌な気分になる。 ・ 真紀ににらまれて、いじめられる。 ・ 言っても分かってくれない。 <p>○ 真紀は、どんな気持ちで「ありがとう」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユリの状況を教えてくれたから、本がよごれた理由が分かった。 ・ 自分が相手を傷つけるような言い方をしていたことが分かった。 ・ 絵里子は、自分のことを思って言ってくれた。 <p>◎ 真紀がユリに「ごめんね」と言ったのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユリの弟が本をよごしたと知らずに、「使用禁止」ときつく言ったから。 ・ 一方的に自分の思いだけ伝えてユリの言い分を聞いていなかったから。 ・ 絵里子にユリがよごした理由を教えられて、ひどいことを言ったと思い、反省しているから。 ・ おこったような言い方をして、ユリが何も言い出せない雰囲気を作ってしまったから。 	<p>◇ 人間関係が視覚的に把握できるように、人物の絵を用いて、考えや言葉を構造的に板書する。</p> <p>◇ 自分のこととして考えられるように、私のような経験がなかったかを聞く。</p> <p>◇ 「真紀の目が少しずつ、絵里子に向いてきた」という表現には、真紀の「知らなかった」「そうだったのか」という思いがあることを確認し、絵里子の思いが真紀に伝わっていくことが分かるようにする。</p> <p>◇ 多面的・多角的な見方ができるように、記述した内容を交流する場を設け、自分にはなかった考えをワークシートに加えるよう伝える。</p>

<p>テーマ解決</p>	<p>テーマ (例) 相手を理解するとは、どういうことだろう。</p> <p>4 テーマに対する今の考えを、ワークシートBに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一方的に言うだけでなく、相手の状況を聞いて、分かってあげること。 ・ どんな思いで言っているのかを考え、素直に聞こうとすること。 ・ 言う方も聞く方も、お互いがなぜそうするのか、相手の気持ちを考えること。 	<p>◇ ワークシート A と同じことを記述している児童に対しては、個別で話を聞くことで、同じ内容である理由や、記述していることから読み切れない深まりを言語化できるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>5 学習を振り返ってワークシートに書く。</p> <p>○ 今日の学習から、自分の行動を振り返って思ったことを書きましょう。</p>	<p>◇ 自分の言葉で記述させるために、これまでの経験を具体的に振り返るよう助言する。</p> <p>☆ 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p>

8 板書計画



1 主題名 友達とは（B 友情・信頼）

2 教材名 「コスモスの花」（「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) 価値観

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、児童にとって最も重要な人間関係の一つである。しかし、高学年の時期は、仲の良い友達との信頼関係を深めていこうとするあまり、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上にみられるようになる。

よりよい友達関係を築くには、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。時に葛藤したり対立したりしながらも、信頼の下に友達関係を育んでいくことが必要である。

(2) 児童観

(略)

(3) 教材観

いつも積極的で活発な「ぼく」を主人公とした話である。「ぼく」は、自分がいつも手助けしていた相手（北山）が、急にクラスメートから認められたのを目の当たりにし、「北山なんてー」と反感を感じるが、北山を悪く言う声に対して思わず「やめろよー」と声を出す。

本教材には、児童と同じ年頃の「ぼく」の友達に対する揺れ動く感情が描かれている。「北山なんてー」「やめろよー」という言葉に込められた思いを対比して捉えることで、友達に対して悪い感情・良い感情の両面を感じることがあることに共感させる。

その上で、最後は北山を傷つけないと思った「ぼく」の思いに寄り添うとともに、そう思えた背景には北山も「ぼく」を心配してくれていたという両者の信頼関係があったことに気付かせたい。

4 本時のねらい

「ぼく」の、北山に対する「北山なんてー」「やめろよー」の裏にある気持ちを対比して捉えることを通して、友達とはどういう存在か考え、友達とよりよく付き合っていこうとする態度を育てる。

5 個人内評価としての見取り

- | |
|---|
| <p>(1) 自分の経験をもとに、問題意識をもつことができている。</p> <p>(2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 他の人の言動に左右されず、自分は友達を尊重し、信頼して行動することが大切だと分かる。・ 葛藤や対立があっても、友達を大切にしたいという心が友達関係を深めていくために必要だと分かる。 |
|---|

6 準備物 場面絵、スライド資料、ワークシート

7 本時の展開

	主な学習活動 ○○発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫・評価 ◇支援 ☆評価
導入	<p>1 アンケートの結果を基に、自身の経験を振り返ってワークシート①に書く。</p> <p>○ 友達をねたんだり、うらやんだりしたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番の仲良しだと思っていたのに、他の人と仲良くしているところを見て嫌だった。 ・ 自分は90点だったテストが友達は100点で、正直悔しかった。 	<p>◇ アンケートの結果を提示することで、友達についてクラス内に肯定的な意見も否定的な意見もあることを捉えさせる。</p> <p>◇ けんかやもめ事の裏にある、友達への負の感情をもった経験を思い起こし、本時の内容につなげる。</p> <p>☆ 自分の経験を振り返り、問題意識をもっている。(ワークシート, 発言)</p>
テーマ設定	<p style="text-align: center;">テーマ(例) 友達ってどんな存在だろう。</p> <p>2 テーマに対する最初の考えを、ワークシートAに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力できる人。 ・ 何でも言い合え、一緒にいたら楽しい存在。 ・ けんかをせず、仲良くできる存在。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるように、導入で提示したアンケートの内容を参考にするよう助言する。</p>
テーマ追求	<p>3 教材を読み、「ぼく」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 「北山なんてー」には、どんな気持ちが表れているでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分が助けていたのに腹が立つ。 ・ 北山が目立つなんて許せない。 ・ 北山のせいで自分が悪者にされた。 ・ 北山なんていなければいい。 ・ なんでこんな思いになるんだろう？ <p>4 中心発問について考え、ワークシート◎に書く。</p> <p>◎ なぜ「ぼく」は思わず「やめろよー」と声を出したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それは許せないと思ったから。 ・ 自分が北山を守りたいと思ったから。 ・ 悪口を言っていた人と自分はちがうと思ったから。 ・ 北山はぼくと気の合う友達で、大切にしたい存在だったから。 ・ 本当は北山の良さを分かっているから。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるように、似たような経験はないか尋ねる。</p> <p>◇ 「思わず」という言葉の意味を実感できるように、「思わず」はどんな時に使うか尋ねる。</p> <p>◇ 多面的・多角的な見方ができるよう、記述した内容を交流する場を設け、自分にはなかった考えをワークシートに加えるよう伝える。</p> <p>◇ 北山が「ぼく」を心配そうな目で見ている場面を思い起こすことで、相互に大切に思っている関係があることに気付けるようにする。</p>

<p>テーマ解決</p>	<p>テーマ（例） 友達ってどんな存在だろう。</p> <p>5 テーマに対する今の考えを、ワークシートBに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腹が立つことはあっても、最後はその人のことを思える存在。 ・ 良いところを認め合える存在。 ・ いざと言う時は味方になってあげられる人。 	<p>◇ ワークシートAと同じことを記述している児童に対しては、個別で話を聞くことで、違いや深まりを言語化できるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>6 学習を振り返ってワークシートに書く。</p> <p>○ 今日の学習を通して、自分は友達にどう接していると思いましたか。具体的に自分の行動を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が一人ぼっちでさみしい時に、声をかけてくれた友達を思い出した。 ・ 本当に友達の良さを分かって認めていたかどうか、自信がない。 ・ 自分しか知らないその人のいいところを見付けられるようにしたい。 	<p>◇ 本時の学習内容を振り返り、自分の考えをまとめるため、ワークシートに記入させる。</p> <p>☆ 道徳的価値を自分との関わりで考えることができています。</p>

8 板書計画

テーマ 友達ってどんな存在だろう

何言ってるの。
玉木くんまちがってる。

なんだよ、北山。花なんか生けて。女子がやることじゃないか。

全く迷いなく、コスモスを美しく生ける（いつもとちがう）

顔めがけて思っきりボール

ぼく

やめろよ

自分が守る。
悪口を言っている人とはちがう。
やっぱり友達。
本当は北山の良さを分かっている。

北山なんて

北山

これまで助けてたのに。
腹が立つ。
目立つのが許せない。
北山のせいで自分が悪者。
いなければいいのに。

友達がいると

- ・ 思ったことが言える
- ・ 助け合える
- ・ けんかやめめ事になる
- ・ けんかやめめ事になる
- ・ 分らないことが分かる
- ・ 集中している時話しかけられる

17 コスモスの花

仲の良い友達が他の人と仲良くしている・・・

自分は90点、友達は100点

1 主題名 家族からの思い（C 家族愛・家庭生活の充実）

2 教材名 「ぼくの名前呼んで」（「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) 価値観

児童が生を受けて初めて所属する社会は家庭である。児童は家庭の中で家族との関わりを通して、愛情をもって育てられている。児童は家庭を構成する家族一人一人についての理解を深めていくことで、自分の成長を願って育ててくれたかけがえのない存在である家族に対して敬愛する心が一層強くなる。

高学年の時期は家族を大切にしようとする思いはある一方で、日常生活の中で家族の自分に対する思いや願いについては深く考えることが少ない時期でもある。自分の成長を願い愛情をもって育ててくれた家族のありがたさに気付き、家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えてみるのが重要である。

(2) 児童観

(略)

(3) 教材観

本教材は、主人公の太郎と、聴覚・言語障害のある両親が支え合って生きていこうとする姿が描かれている。太郎が学校で言われた言葉から「自分は一度も両親から名前を呼ばれたことがない。」という事実をつきつけられ、その思いを父親にぶつける。しかし、父の涙ながらの手話から、両親の深い愛に改めて気付く。

指導に当たっては、まず「一度でいいから、ぼくの名前呼んで」にこめられた太郎の気持ちを考え、どうしようもないことは分かっているが、こらえきれない悲しさや悔しさを訴える太郎の気持ちに共感させる。そして、涙ながらの手話を見た太郎の気持ちを考えることを通して、家族の自分に対する温かい思いを考えられるようにする。

本教材を通して、家族の形は様々であるが、どんな形であっても自分を思い育ててくれている家族がいることに気付き、そのような家族の思いに応えようとする気持ちにつなげていきたい。

4 本時のねらい

父親の涙ながらの手話を見た太郎の気持ちを考えることを通して、自分の成長を願い愛情をもって育ててくれている家族の思いを知り、感謝の気持ちをもって家族に接しようとする態度を育てる。

5 個人内評価としての見取り

- (1) 自分の経験をもとに、問題意識をもつことができている。
- (2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。
 - ・ 家族は自分の成長を願って、愛情をもって育ててくれていることに気付いている。
 - ・ 家族の愛情を受けて、自分がどのように生きるか考えられている。

6 準備物 場面絵、スライド資料、ワークシート

7 本時の展開

	主な学習活動 ○○発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫・評価 ◇支援 ☆評価
導入	<p>1 自分の経験を思い出し、ワークシート①に書く。</p> <p>○ 家族に大切にされていると感じた経験を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、ご飯をつくってもらっている。 ・ 寒い日に、学校に送ってもらっている。 ・ いつも学校であったことを聞いてもらえる。 ・ 「ゲームやりすぎ」と注意してくれる。 	<p>◇ どんな思いでももらっていると思うか問い返す。</p> <p>☆ 自分の経験を思い出し、問題意識をもっている。(ワークシート, 発言)</p>
テーマ設定	<p style="text-align: center;">テーマ(例) 自分にとって家族とは・・・</p> <p>2 テーマに対する最初の考えを、ワークシートAに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつもそばにいてくれるもの。 ・ 何でも言える人。 ・ 自分を応援してくれる。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるように、ワークシート①を参考にするよう助言する。</p>
テーマ追求	<p>3 教材を読み、「ぼく」とお父さんの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 「一度でいいから、ぼくの名前呼んでー」と言った時、太郎はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お父さんのせいで、ぼくは友達にばかにされた。 ・ 何でぼくだけ名前を呼ばれないのか。 ・ こんな家に生まれてこなければ良かった。 <p>○ お父さんの涙には、どんな思いがこもっているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名前を呼べないことは、本当にすまないという思い。 ・ お母さんも、自分も、太郎の声を聞きたいし、名前を呼びたいという思い。 ・ 障害の有無に関係なく、太郎を本気で思っている。 ・ 太郎にも最高の生き方をしてほしいという願い。 <p>4 中心発問について考え、ワークシート◎に書く。</p> <p>◎ 父の涙ながらの手話を見た太郎は、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくが生まれたとき、幸せだと思ってくれた。大切にされているんだ。 ・ 名前を呼ばれないのは悲しいけど、お父さんやお母さんはもっと悲しい思いをしていた。 ・ お父さんの言うように、最高の生き方をしたい。 	<p>◇ 「一度でいいから」「しばらくためらっていた」という表現から、太郎のわがままではなく、無理だとは分かっているけどどうしても伝えなかったという葛藤があることを確認する。</p> <p>◇ 「ほとぼしり出るような手話」「まばたきもせずに見つめていた」という表現に着目させることで、父と太郎にはお互いを本気で思う気持ちがあると気付かせる。</p> <p>◇ 多面的・多角的な見方ができるよう、記述した内容を発表する場を設け、自分にはなかった考えをワークシートに加えるよう伝える。</p>

<p>テーマ解決</p>	<p>テーマ (例) 自分にとって家族とは・・・</p> <p>5 テーマに対する今の考えを、ワークシートBに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を願ってくれる人。 自分を大切にしてくれ、愛情をもって育ててくれている存在。 かけがえのない大切な存在。 	<p>◇ ワークシート A と同じことを記述している児童に対しては、個別で話を聞くことで、違いや深まりを言語化できるようにする。</p>
<p>終末</p>	<p>6 学習を振り返り、ワークシートに書く。</p> <p>○ 今日の学習を通して、家族について思ったことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族が何かしてくれているのは、自分への愛情があるからだ気付いた。 親はいつも自分に注意するけど、それは自分の成長を願い、大切にしてくれているからだと思った。 家族の愛情を受け、自分の最高の生き方を考えたいと思った。 	<p>◇ 自分の言葉で記述させるために、これまでの経験を具体的に振り返るよう助言する。</p> <p>☆ 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p>

8 板書計画

テーマ 自分にとって家族とは・・・

B

自分の成長を願ってくれる
自分を大切にしてくれ、愛情をもって育て
かけている存在
かけがえのない大切な存在

お父さん…聴覚障害
言語障害

太郎

友達

一度でいいから、
ぼくの名前呼んで

一度も名前
呼ばれたこと
ないだろう。
いい気味だ。

お父さんのせいで、
ぼくは友達にはか
にされた。

何でぼくだけ名前
を呼ばれないのか。
こんな家に生まれ
てこなければ。

本当にすまない。
太郎の声を聞きたい。
名前を呼びたい。
本気で思っている。
最高の生き方をして
ほしい。

心の底からの
なみだ ほとばしり出るような
手話

A

いつもそばにいてくれる
何でも言える 応援してくれる

家族に大切にされている
・毎日ご飯を作ってもらおう。
・寒い日に学校に送ってもらおう。
・学校であったことを聞いてもらおう。
・「ゲームやりすぎ」と注意。

19 ぼくの名前、呼んで

大切にされ
ているんだ。
お父さんや
お母さんは
もっと悲し
い思いをし
ていた。
最高の生き
方をしたい。

1 主題名 かけがえのない命（D 生命の尊さ）

2 教材名 「おじいちゃんとの約束」（「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) 価値観

生命を尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。連続性や有限性といった生命の侵し難い尊さが認識されることにより、生命を決して軽々しく扱わない態度が育まれる。

私たちの回りでは、生命や人間の尊厳を軽視する言動や事件を多く耳にする。また、日常生活では、自分が生きていることそのものの価値にまで目を向けることは少ないのではないだろうか。生命のかけがえのなさを自覚し、生きることのすばらしさを考えることが求められる。

(2) 児童観

(略)

(3) 教材観

主人公の信二は、死を目前にした祖父から「生きていることそのものが尊い」という言葉を聞く。そのような中で信二はテレビから「死んでこい」の言葉を耳にする。その言葉に、信二は過去の自分を重ね、怒りを感じ涙をこぼす。祖父の死後、信二は精一杯生きるのがおじいちゃんとの約束だと思う。

本教材は、児童に日常生活を振り返らせながら生命の尊さを考えさせられる内容である。信二のように生命を軽視するような言動をとっていないか、自分の生活を振り返ることを通して、生命の尊さを考えながら、かけがえのない生命を精一杯生きようとする心情を育てたい。

4 本時のねらい

祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、生命の尊さについて考え、かけがえのない生命を精一杯生きようとする心情を育てる。

5 個人内評価としての見取り

- | |
|---|
| <p>(1) 自分の経験をもとに、問題意識をもつことができている。</p> <p>(2) 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生命のかけがえのなさについて、自分の命はたった一つの大切なものであること、他の人の命も自分と同じように大切なものであることなど多面的・多角的に捉えることができている。・ 自分にとって命を大切にすることはどういうことか、自分の考えをもつことができている。 |
|---|

6 準備物 場面絵、スライド資料、ワークシート

7 本時の展開

	主な学習活動 ○○発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫・評価 ◇支援 ☆評価
導入	<p>1 自分の経験を思い出し、ワークシート①に書く。</p> <p>○ 「死」という言葉を、簡単に使ったり、聞いたりしたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メールで「死ね」と送ったことがある。 ・ うまくいなくて、「もう死にたい」とふざけて言ったことがある。 ・ テレビの中で「死んでしまえ」と言っているのを聞いた。 ・ 使ったことはない。 	<p>◇ 発言しづらい発問なので、想起にとどめるように伝える。また、どんな気持ちで「死」という言葉を簡単に使っていると思うか聞き、テーマにつなげるようにする。</p> <p>☆ 自分の経験を思い出し、問題意識をもっている。(ワークシート、発言)</p>
テーマ設定	<p style="text-align: center;">テーマ(例) 命を大切にするとはどういうことか。</p> <p>2 テーマに対する最初の考えを、ワークシートAに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 死ねという言葉を使わないこと。 ・ 健康に気を付けて病気にならないこと。 ・ 命は一つだから、精一杯生きること。 	<p>◇ 自分のこととして考えられるように、1で想起した内容を参考にしよう助言する。</p>
テーマ追求	<p>3 教材を読み、信二の気持ちについて話し合う。</p> <p>○ テレビを切った後の「いかり」と「なみだ」は何だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビの中で「死んでこい」と言って、死を笑いものしているから。 ・ 「死んでこい」の本当の意味が分かっていないと思ったから。 ・ 軽く死を扱っている人と、自分は同じだと思ったから。 ・ 今にも死にそうなおじいちゃんを思い出して、悲しくなった。 ・ おじいちゃんの「生きていることそのものが尊い」という言葉に、これまでの自分はそう思えていなかったと気付いたから。 <p>4 中心発問について考え、ワークシート◎に書く。</p> <p>◎ 「精一杯生きるよ。」には、おじいちゃんに対するどんな思いがこめられているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人と比べたりしないで、自分は自分らしく生きるよ。 ・ できないからといって自分をはじないで堂々と生きるよ。 ・ 自分の命も、人の命も、大切にするよ。 ・ ぼくは精一杯生きるから、おじいちゃん見ててね。 	<p>◇ テレビの内容に対するいかり、それと同じ事をしていた自分に対する怒り、おじいちゃんの状態や言葉を思い出しての悲しみ、といった複雑な感情に共感できるように、出た意見を構造的に板書する。</p> <p>◇ 死を軽く扱っていた自分が変わったきっかけを考えられるように、なぜそう変わったと思うか問い返す。</p> <p>◇ 多面的・多角的な見方ができるよう、記述した内容を発表する場を設け、自分にはなかった考えをワークシートに加えるよう伝える。</p>
テーマ解決	<p style="text-align: center;">テーマ(例) 命を大切にするとはどういうことか。</p> <p>5 テーマに対する今の考えを、ワークシートBに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 限りある命を、最後まで精一杯生きること。 ・ 自分は自分だから、自分にはこりをもって生きること。 ・ 自分を支えてくれている人のことを思って生きること。 	<p>◇ ワークシートAと同じことを記述している児童に対しては、個別で話を聞くことで、違いや深まりを言語化できるようにする。</p>

終末	<p>6 学習を振り返ってワークシートに書く。</p> <p>○ 今日の学習を通して、考えたことを書きましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分らしく生きることが命を大切にすることだとは思っていなかった。 ・ 自分の命が大切なのもと同じで、人の命も大切だと思った。 ・ 自分を支えてくれている人がいる。その人のためにも、命を大切にしたいと思った。 	<p>◇ 自分の言葉で記述させるために、これまでの経験を具体的に振り返るよう助言する。</p> <p>☆ 道徳的価値を自分との関わりで考えることができている。</p>
----	---	---


8 板書計画

B

限りある命を、最後まで精一杯生きること。自分は自分だから、自分にはほこりをもって生きること。自分を支えてくれている人のことを思って生きること。

テーマ 命を大切にすることはどういうことか。

いかりと
なみだ



おじいちゃん
と
太郎の挿絵

テレビでは死を笑いものにしている。
本当の意味が分かってない。
自分も同じだった。
おじいちゃんを思い出す。
これまでの自分は思っていない。

だれの命も同じだけ大切

自分の命を大切に生きる、それが大事

精一杯生きれば、だれにもはじめることはない

→ 生きていることそのものが、尊い

◎ 「精一杯生きるよ。」にこめられた思い

- ・ 人と比べないで、自分は自分らしく生きる。
- ・ 自分をはじないで堂々と生きる。
- ・ 自分の命も、人の命も、大切にする。
- ・ ぼくは精一杯生きるから、見ててね。

A

死ねと言う言葉を使わないこと。
健康に気を付けて病気になること。
命は一つだから、精一杯生きること。

簡単に使った人の気持ち
・ ついぶざけて
・ 笑いをとれる
・ 相手のことを考えていない

28 おじいちゃんとの約束